

渡良瀬年表(伊藤オリジナル・参考: 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会)

室町時代からこの地は肥沃な農地として知られていた。江戸時代には主に古河藩が開拓を行った。当時から洪水が頻発していたため、古河藩はこの地の年貢を大幅に減免する措置をとった。しかし、洪水がない年の収穫は非常に大きく、1年収穫があれば7年は食べられるとも言われたほどだったという。

現在の栃木県日光市足尾地区では江戸時代から銅が採掘されていたが、江戸時代前期をピークとして産出量はいったん低下し、幕末にはほとんど廃山の状態となって国有化された。

西暦	元号	市民	行政	ほか
室町				肥沃な農地として知られる
江戸			古河藩が渡良瀬付近を開拓。洪水が多く年貢の減免措置が取られる。	足尾銅山発見
1684	貞享元		幕府御用山として足尾銅山開発が進められ、年間1,500トンを生産とされる	
1740	元文5			渡良瀬川沿岸で鉱毒による免租願いが出される
1844	弘化元			足尾銅山、資源枯渇によりほぼ休山状態
1869	明2		鉱山解放令により鉱山の民営化が許可	
1877	明10			古河市兵衛、足尾銅山精錬所創業。
1878	明11			渡良瀬川の鮎の大量死
1879	明12		渡良瀬川の魚類の食用、販売禁止令(栃木県)	
1884	明17			足尾銅山で大鉱脈発見。西欧の近代鉱山技術を導入し、東アジアの銅の産地となる。足尾の木が枯れ始める。
1885	明18			再び渡良瀬川の鮎の大量死。足尾鉱毒、渡良瀬川沿岸に広がる。
1888				渡良瀬川大洪水
1890	明23	田中正造、第1回衆議院議員総選挙に栃木3区から出馬し初当選	栃木県議会、知事に鉱毒停止要求の建議書を提出 栃木県足利郡吾妻村(現在の佐野市吾妻地区)会が足尾鉱山の操業停止を求める決議を採択	
1891	明24	田中正造、第二回帝国議会で鉱毒問題を質問、鉱業停止を要求。	群馬県議会から各県知事宛に鉱毒停止要求の建議書が提出	
1894	明27			日清戦争(~1895)
1896	明29			大洪水、鉱毒被害は渡良瀬川・利根川・江戸川流域の1府5県。
1897-98		鉱毒被害民3回にわたる東京押し出し(要請行動)。	政府は足尾銅山鉱毒調査委員会を設置	
1901	明34	田中正造、国会で最終演説、議員を辞して明治天皇に直訴。		足尾町に隣接する松木村が煙害のために廃村。
1902	明35		内務省が栃木県利島村、川辺村、谷中村に遊水地化計画を推進。利島村、川辺村の反対運動により計画を撤回	大洪水により谷中村堤防決壊
1903	明36		谷中村廃村、遊水地化計画が正式発表	
1904	明37	正造、谷中村に入村。	栃木県議会、秘密会で谷中村買収遊水池化案を可決。	日露戦争(~1905)谷中村廃村計画は話題にならず。
1906	明39		谷中村が強制廃村となり、藤岡町に合併	

1907	明40		栃木県、旧谷中村一帯に河川法を適用し「河川法準用区域内占用に関する告示」。土地収用法適用、旧谷中村において残留民家16戸強制執行	
1910	明43		渡良瀬川改良工事(渡良瀬遊水池造成)～大正11年	洪水。
1913	大 2	田中正造死去。		
1917	大 6		旧谷中村最終残留民立ち退き	
1918	大 7		渡良瀬川を遊水池に流し込む付け替え工事。	
1920	大 9			旧谷中村民と藤岡町民の間でカヤを刈る権利を巡り対立
1922	大 11		一帯を堤で囲う工事が完成	
1947	昭22		以後20年に渡り、渡良瀬川に堤防建設。	カスリーン台風。渡良瀬川の堤防8ヶ所決壊。付近の大半が水没し生井村では死者11名。栃木県内だけで、死者・行方不明者437人。
1952	昭27		保安隊(陸上自衛隊の前身)の演習地計画(反対により中止)	
1955	昭30			この頃から葦焼きが始まる
1960	昭35		足尾町に防砂ダム(足尾ダム)完成	
1962	昭37		調整池工事開始	
			アメリカ軍演習場計画(反対により中止)	
1963	昭38		内部に堤を築いて3調節池に分ける工事が始まる(～1997年)	
1965	昭40			この頃、ヨシズ生産がピーク。生産量40万枚、占用組合員数も約200名。
1970	昭45		第一洪水調節池工事完了	
1971	昭46			イランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)」が採択。 群馬県太田市毛里田で収穫された米からカドミウムが検出され出荷が停止
1972	昭47		第二洪水調節池工事完了	
1973	昭48			足尾銅山、閉山
1975	昭50			国連、ラムサール条約を発効
1976	昭51	「谷中村遺跡を守る会」発足	谷中湖工事開始。 群馬県、栃木県、桐生市、太田市と古河鉱業の間で公害防止協定が締結	
1980	昭55			釧路湿原がラムサール条約国内初登録。
1988	昭63		渡良瀬遊水池アクリメーションランド構想	
1989	平 元		渡良瀬貯水池(谷中湖)完成。	JR足尾線の貨物輸送が廃止され、足尾銅山、鉱石からの製錬事業を事実上停止
1990	平 2	9月「渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会」発足	銃猟禁止区域(栃木県)	利根川下流の水道水で異臭騒ぎ
1998	平10		第三洪水調節池の越流堤が完成。	
2000	平12		「渡良瀬遊水池の自然を生かしたランドデザイン」発表	

2001	平13	「わたらせ未来基金」発足		9月 洪水
		「渡良瀬遊水地クリーン作戦」開始		
2002	平14		国土交通省、第二貯水池建設計画の中止を決定。	
			「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」設置(H16まで4回開催)	
2004	平16		渡良瀬遊水池(谷中湖)の干し上げ始まる。	体長3ミリほどのコメツキムシの新種が発見され、「ヨツモンツヤミズギワコメツキ」と名付けられる。
				新種「ワタラセツリフネソウ」が植物学会で発表される
2006	平18	「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会」発足		
2007	平19	「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会」がCOP10でラムサール条約登録になる事を求め、署名15476筆の署名を関係自治体等に提出	第3次生物多様性国家戦略でラムサールCOP11までに10か所の新規登録が目標とされる。	
2008	平20		「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」設置(H22まで6回開催)	7月ラムサール条約COP10(韓国)。
2010	平22		3月「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」策定(国土交通省)	
			「渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」設置	
2011	平23	10月 ラムサールネットワークなど7団体「渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録に関する要望書」を国などに提出	中央環境審議会での国設鳥獣保護区の指定を経て2012年7月のラムサールCOP11までに渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録の方針を決定	3.11の地震で足尾の源五郎沢堆積場が決壊。下流で基準値を超える鉛が検出。震災で消火要員の手配ができず葦焼きの中止。
2012	平24	地元の治水団体と自然保護団体の調印式(2月28日)	6月渡良瀬遊水地が国の鳥獣保護区に指定される(環境省)	7月ラムサール条約COP11(ルーマニア)で、渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地登録簿に掲載
				原発事故の影響によるセシウム検出により、葦焼きの中止
2013	平25		渡良瀬遊水地利活用協議会(仮称)発足予定	3年ぶりに葦焼きを再開